

# 八木健の川アート

38

## 反対側から見えて描くこと

川柳の方法として、反対側の立場から眺めるのがよらしい。

船場吉兆の残り物使いまわし事件も

地球にやさしかったね船場吉兆は

上野動物園のパンダが死んでみんな残念がったけれど、パンダにしてみれば、拉致されて異国で死んだパンダ君というわけである。

## 特選

選者・川柳アート  
八木健

〔月刊川柳総合誌「川柳マガジン」元選者〕



池内 弘志 (伊予市)

上下するガソリン価格に血圧も

ガソリン価格の上昇に比例して血圧も上がる。最近では上下するどころか上がりっぱなし。その結果、血圧の上昇に反比例して国民は意気消沈する。給油しながら血圧を測るサービスをするガソリンスタンドをつくれれば儲かるかも。

## 佳作



花山 昇 (松山市)

置き土産とは行楽地のごみのこと

いまだにゴミ籠が置かれている公園・行楽地がある。愛媛県内の市町もしかり。せっかく置かれているからと置き土産に弁当の殻を捨てる。赤字の自治体に多く見られる。回収するには人件費もいるだろうに。橋下知事の大阪府はどうかな？



矢田しげを (松山市)

家庭内順位は妻の下が楽

日本は女性上位の国である。サラリーマンは、妻から毎月お小遣いをもらう。財布のヒモは妻が握っているからだ。とはいえない重要な案件は妻の承諾なしにはできない仕組みだ。家長の椅子を渡せば気分的には楽になるだろうね。……食糧危機の到来が待たれますね。



ありママ (松山市)

この人を選んだ私の落ち度かな

結果が期待はずれだったということだろう。美人は三日で飽きるというが、イケメンも同じこと。というより男を顔で選べば、失敗率が高いらしい。「私の落ち度」と嘆いているようだ、それが人生、うまく行かないのが人生。「あきらめ」が肝心のよ。



城導寺しん (八幡浜市)

老いを実感孫を相手に頑張る

老いを実感孫を相手に頑張る。孫は来てよし帰ってよし。教育の責任はないから爺婆は孫を溺愛する。その結果、爺婆はなんでも聞いてくれる存在となり、孫の餌食となるのだ。そしてほどなく「クソババア・クソジジイ」という言葉を覚えた孫から見捨てられる。

## 古今の名句

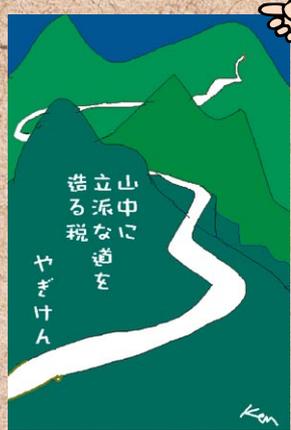


尼 緑之助

何もかも捧げたようにバラ散りぬ

緑之助は島根県出雲市の人で、川柳をつくりながら三十三年間役場に勤務。川柳は吐息酒から句が生まれ」という句で知られ、酒と妻を愛して数々の自然体の作品をつくった。新聞やラジオの選者も務め、昭和六十三年に八十一歳で死去。

## 今月の八木健



山中に立派な道を造る税

民主党がなすすべもなく、ガソリン税が元に戻された。いまやとんでもない山の中にまで立派な道路ができて、タヌキやキツネがひき殺されている。意外に知られていないのは山の中で道路ができて「過疎化が加速されたこと」である。息子たちは爺婆を残して街へ移住した。車ですべて帰省できるからである。

「八木健の川柳アート」では、川柳を募集しています。テーマは自由。未発表のオリジナル作品に限ります。採用された作品には八木さんが「川柳アート」を作り、本誌に掲載の上、採用者にプレゼントいたします。応募方法は36ページをご覧ください。

本コーナーが  
待望の単行本化  
好評発売中!!

